’02 第九

のべおか第九だより（第314号）
2002年11月30日 (土)

○発行　のべおか「第九」を歌う会
○事務局（延岡総合文化センター内）
882-0852 延岡市東浜砂町611番地２
電話 (0982)２２－１８５５

今日の練習

高関先生の直接指導
○ A (237～330小節）p.9～17
○ B (411～654小節）p.20～33
◎ C (655～762小節）p.34～43
◎ D (795～920小節）p.46～58

12月14日まであと14 日

前回の練習	会員数	出席数	出席率	自己採点
♦ ソプラノ	30 人	24 人	80.0 %	69.2 点
♥ アルト	65 人	57 人	87.7 %	68.3 点
♣ テノール	24 人	16 人	66.6 %	61.8 点
♠ バ　ス	27 人	17 人	63.0 %	58.8 点
● 合　計	146 人	114 人	78.1 %	66.2 点

先日の直接指導から…

＠高関先生の指導（11月16日）

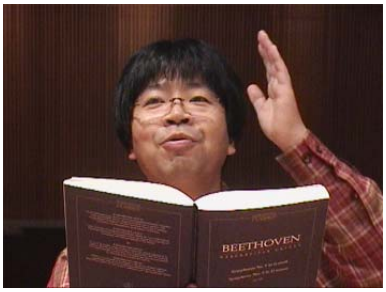
その付近の注意…●総合・♦ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話
（ほかのパートの注意でも関連があります。全部読んでください。）

★ 【お話し】どうぞよろしくお願いいたします。あのぉ、私の「第九」がだいぶ風変わりだとう風評がたっているようですが（笑）…決してそうではありませんので、ただなるべく楽譜に忠実にやろうという考えでやっているだけですから、そんな理不尽に変ではありませんのでよろしくお願いします。それではやってみましょう！

● 257 【Dei-ne Zau-ber～】 今ちょっと軍隊調になっている感じなんです。もっと横に広がるような立派な感じでやっていただけませんか。
……堂々と歌うと“遅く”なるんですよね。大事な言葉が一番いいところに書いてあるんですよね。それを強調して歌っていただければいいんですよ。“Zau-ber”（257）…ちょうどそうなっているです。もちろんベートーベンが考えてそう書いたわけなんです。…“Brü-der,”（262）。これ一番大事です。一番高い音ではないですけども、そこを一番大事に歌ってください。そこに“重さ”があるように。

● 284 【Ja,～】 まだちょっとコォ（軍隊調？）なってますかね？もうちょっとゆったり歌っていってください。ひとつひとつをもう少し長め長めに。それから“ファ・ファ・ソ・ラ・ラ・ソ・ファ・ミ”

というのはそれで一つですから。それがお豆腐の細の目みたいにならないように。



● 290 【konnt, der steh-le～】 楽譜をよくご覧になっていただけますか、dim.の場所はどこになっているのでしょう？“dim.と書いてあるところから小さくする”んです。我々はそう習いましたよ。dim.と書いてあるところの頭は大きいんだ、と。cresc.と書いてあるところの頭は小さいんだよ、と。ですからそこまで大きく歌っちゃっていいですよ。今はちょっと早いですね。特にソプラノの方はそこまで歌いきってください。

● 291 【wei-nend sich aus～】 最後の2小節、もう少し優しく歌ってください。

● 313 【Küs-se gap sie～】 “パラパラパラパラ…”と少し短くなりますよね。（ソプラノ・テノール）。なるべく2つとも大事に歌ってください。それから4分音符担当の方（アルト・バス）も急がないで。今、4分音符が先にいっています。

● 321 【und der～】 原典版でいきます。皆様の楽譜がどうなっているかは知らないのですが、“und der Che-rub steht vor”（321～323）にはスタッカートが書いてありますか？そのあとからは書いてないですね。6つの音符にスタッカートが書いてあります。…ね。7つ目からない…ですね。ということは“この6つの音符をはっきり歌いたい”のです。“同じ重さ、同じ大きさ”で歌ってください。言葉であれば“Che-rub”というのがホントは一つの言葉ですけども、構いません。6つの音符に“勢い”があるといい。そして324小節から変わります。あのぉ“蒔きを6つ割る”。1・2・3・4・5・6、と6回全部やるんです。全部同じストロークが必要ですよね。4本目だけちょっと…って、そういうことはないわけです。

……“Che-”だけ長いです！これはそう、だいたい世の中そう歌っています。違う、違う！“rub”が聞こえないと。
……というような感じ。ここは男っぽいところなんです。だから優しさがあっちゃぁダメです。もちろん、今まで通りに息をとっておいていていいですよ。ただ、全部同じ勢いがあっていてほしいです。
……要するに3種類のキャラクターがあるんです。“Küs-se gap sie …”を朗々と歌うところがあっ

て、“steht vor Gott, …”があって、そして“und der Che-rub steht vor …”です。ここがこのテキストの一番大事な部分なんですから、ここを強調しているわけです。あとは長く歌うんです。……短い、短い！今度は短い!!…短くしてくださいとは言ってないんですよ。大事なのはスタッカートです。

★ 321 【お話し】スタッカートって皆さんご存じですよね。音をどうするんですか？音を短く切る？それが間違いのモトなんです。スタッカートというのはですねぇ“ベツベツに歌う”ということです。まぁ結果的に短くなることがあるんですけれども。こういう説明の仕方が一番わかりやすいと思うんですけども、回数券ってありますよね。回数券が6枚つづりですよね。5枚の料金で6枚かどうかは知りませんが、あれを1枚ずつバラバラに切り離して使うのをスタッカートと言うんです。“スタッカーレ”って語源が言うんですけど。切り離した回数券の幅が狭くなったって話は聞いたことありませんね。ベツベツに歌うんで、短く歌うのが目的ではないです。そう思ってください。
……（後半練習）あの、勢いが必要なんですね。“ぱちっ”と切ることが目的じゃなくて、たくさんの息を使ってたくさんの声を出して結果的に最後がなくなってしまうという歌い方です。だからどこで息をとるということではありません。なくなったら息をとればいいんです。バラバラでも構わないんです。

○ 322 【Che-rub】 “-rub”が短すぎるようです。“Che-”とか次の“steht”ととかと同じ長さで歌ってください。…“rub”をじゅう～ぶん歌ってください。今までそれだけ短かったんです。

○ 330 【Gott.】 あんまり長くありません。（従来は）オーケストラの弦楽器が何回も弓を返してますけど、1回でおしまいにしちゃいますから。ヴァイオリンの弓の長さは68cmと何mmかです。もうそれでおしまい！そのかわり力一杯最後まで歌ってください。そして遅くしません。“フォ～オ～ルゴーォ…オット”ってやりませんから。“…バン！”ってバッチリ決めちゃってください！

● 411 【Lau-fet,～】 …いいです、いいです！もうちょっとこういう（弾む）感じで。これはみなさんの世代で言うと歌声喫茶風に歌ってください（笑）。ありましたよね、机を挟んで反対側に体をゆすりながら歌う…。

……あの、付点4分音符と普通の4分音符というのがありますね。それがもう少し分けて歌えたら、もっと音楽がはっきりしますけどね。“Lau-fet,”というのには休符がありますよね。でもその次はないですね。“freu-dig,”“wie ein”“Held zum”（415〜417）…ここに休符があるんですよ。ということはこの“Held”は少し短めに歌っていただけるといいです。
……“wie ein”（419）そこにも休符がありませんか？ありますよね。もう1回ちゃんとやってみましょう。
……ですから1回目の“wie ein”（416）は“ein”の後ろに休符、2回目の“wie ein”（419）は両方休符、そして最後の“wie ein”（427）はつなげて書いてあるんです。実は違うんですよ。そう思って歌ってください。ちょっとこれは重箱の隅といえば隅なんですけども、ベートーベンが書いた音楽としてはこうなんです！そこをチャンと分けて歌っていただけるといい。

★ 411 【お話し】昨年は原典版でやったんですか？（331）コントラファゴットが“プー”ってところで笑わないようにしてもらいたい。コントラファゴットが最低音を吹くんですよね。それビックリしないでくださいね。今までと変わっているんです。新しい楽譜。そんな低い音はコントラファゴットはキーがなくて出るはずがないと言われていたんですけど、理由は簡単です。ファゴットの倍の長さがあるんですよね。だからオクターブ下は出るんですよ。出るからベートーベンが書いたんですよね。それをあとの人が出ないだろうと勝手に書き変えていたんです。

● 424 【freu-dig,〜】“f”のとき（424〜）に唇にあんまり力を込めないでください。あんまり必要ないです。“r”のほうはないと困ります。“f”の発音については、上の歯が下の唇に1回あたって通過すればそれで成立しますから、それに向かってやってしまうと、息が出ませんから。なるべく軽くおっしゃってください。“ロ…”ってのを歌い込んでいただいたほうがいいです。で、その“ロ”が音符の時間にポンと入ってくれればいいです。“f”は音符の前に来ちゃったって構わないんです。“f”を言っている間は声になりませんから、それがいけないんです。
……ここからバスとテノールで3回の“freu-dig,”音程をハズしても構いませんから、勢いがあったほうがいいです。いいですハズしてもいいです（笑）！“freu-”のほうがちょっと音程が高くなっちゃうんですよ。そうです“嬉しい！”ということですから“ウレジィ…”とは言わないですね（笑）。もっとソコに入ってみてください。
……“フローイディッヒ”の“イ”はなるべく後にしましょうね。“フロイ…”って言ってしまうと、そこで声がなくなってしまう。“イ”は“ディ”の寸前にあればいいです。

● 543 【Freu-de,〜】あのぉ…sfの場所をもう1回、確認してください。“E-ly-si-um,”（549）。“feu-er-trun-ken”（553）。“Hei-lig-tum!”（557）。“Brü-der,”（570・586）。あと、“al--le Men-shen”（566・582）にffが書いてあります。そこに向かって気持ちを持っていっていただければいいです。そこに向かってcresc.があって全然かまいません。それ以外のところは、もうちょっと楽に歌ってください。ここ、結構みなさんは入れ込みますよね。でも、よぉ〜く見てください。fは1個ですよ。2つじゃないですよね。1個です！余裕綽々で歌っていただきたい。先は

まだ長いですからね（笑）。

……（後半練習）全力で歌いきらないようにしてください。おさまったらおさまったで結構です。sfは大事な言葉ですから、そこに向かって気持ちが行くというのは大いにやってください。そうするとsfが同じように歌えます。ちょっとやりすぎかな、と思えるぐらい強調してやってください。……そうそう、それぐらいやらないと分からない。

○ 556 【sche dein】 あ…！そこ（“dein”のあと）で息をとってはいけません！“Himm-li-sche” “dein Hei-lig-tum!”です。“dein”は人称を現す関係代名詞ですから。
……まだつながっている！“Himm-li-sche”これこそ短く歌っていただいて結構です。踏切板だと思っていただいて…私、とびばこがダメだったんですけど（笑）、とびばこがsfです。そういうふうに歌えばいいんです。

● 566 【teilt; al-〜】 これは最近の学説といっちゃナンなんですけど、ffが書いてありますよね。以前我々もずっとそう思っていたのですけども、ベートーベンの音楽は1度ffと書いてあったら次になにか書いてあるまで、ずーっとffでやれって言われ続けてきたんです。そう思って私もやってきたんですけど、そうすると割が合わないんですよね。1回目と2回目の“al--le Men-shen”（566・582）の間にどこも小さくなれって書いてないんですよ。おかしいじゃないか？…と、そういう話になって最近は「ffが書いてあるところは大事なところだけffで歌ってほしい」となったんです。そう考えると、ここで一番大事な言葉は“al--le Men-shen wer-den Brü-der,”の4小節間。ここまでff。あとはいいんです。“wo dein sanf-ter Flu-gel weilt.（汝が優しき羽交の下に憩わば）”ですから。そう思ってください。ですから、“wo dein sanf-ter …”は少し落ち着いてください。こうすると、もう1回“al--le Men-shen”がffで歌えるわけです。これは私が発見したことではなくて、みんなそう言ってます（笑）。

● 582 【teilt; al-〜】 もしできれば…“al-le Men-schen”を頑張った上で“Brü-der,”（586）です。これが一番大きいです。ここまでのsfが5段ぐらいのとびばこで、この“Brü-der,”が7段ある、8段かもしれない。筋肉番付みたいに飛んでみてください（笑）。

● 586 【Brü-der,～】 “Brü-der,”という言葉はみなさん、たぶんもうお気づきだろうけど、いつも必ず揺れているんですよね。だから“Brü-der,”という言葉はベートーベンの音楽ではそこだけビブラートがかかっているんですよ。この言葉に憧れがあるんですね。特に強く言いたいんです。だから特に強くやってください。

★ 586 【お話し】ベートーベンは、ヨハンという兄貴かな…仲悪かったんですね。有名な話ですけど、ヨハンという人はお金が好きだったんですよ。ベートーベンもお金が好きだったんですけども、お金儲けの方法を知らなくて、ヨハンさんのほうがそれができたんです。それでヨハンさんがベートーベンに「お前、金が足りないなら助けてやるよ…財産所有者　ヨハン・ベートーベン」って書いてきたんですよ。そしらたベートーベンが「そんなものはいらない　頭脳所有者　ルードリッヒ・ベートーベン」って書いて返した（笑）という話があるんです。

● 595 【Seid um-～】 「Andante maestoso」ですから“偉そうに”歌っていただかなくてはいけないんです。“偉そうに”ですよ、エライ必要はないんです。自分は偉くなくても構わないんです（笑）。

……ffが３回とも書いてあるんですか？“Seid”にffですよね。“Mil-li-o-nen!”はsf？、それ間違いです。ffです。“Seid”“Mil-li-o-nen!”“gan-zen Welt!”3回ffです。これも音符全部をffで歌おうと思わないで、いいですか。“Sei…”と終わっちゃったら終わっちゃったでいいぐらいです。そのかわりタップリ歌ってください。それで“gan-zen Welt!”に行く前の“der”も非常に長い踏切板だと思っていただければいいんです。息はとってもいいですから、繋がっていってください。

○ 595 【Seid um-】 こんなにたくさんffが書いてあると困ってしまいますよね。だからここもffと書いてあるところだけffで歌えばいいんです。……“um-”に“・”が打ってある楽譜があるらしいんですけど、ない？じゃ、その楽譜は大丈夫です。……（後半練習）ここに入る前、少し間をとりますから、ここから充分雰囲気を変えてください。すぐはいりません。

● 597 【-li-～】 “-li”“-o-nen”はスタッカートですが、それは声の量ではなくて発音でハッキリ出してください。そういうふうにすればffでなくても充分に聞こえます。

○ 597 【-li-】 ここから“-li-o-nen!”、“・”が3つあります？“-li-”にも“・”があるんです。ある

と思ってください。だから1回目と2回目はちょっと違うんです。簡単なことなんですけど、“um-”（596）ははっきり言う必要はないんです。でも“-li-”ははっきり言わないと“100万”という言葉に聞こえないです。だからそこに“・”が打ってあるんです。そういうことです。

○ 599 【Die-sen】 あとは楽に。

○ 600 【Kuß der】 “Kuß”にも“・”がありますよね。…ないか？ない！…そこにも“・”があるんです。でも確認のために言いますけど、スタッカートはベツベツに歌うんです。短く歌うんじゃないです。ベツベツに歌うということはもうひとつありまして、重さがちゃんとはいってしっかり歌うということにもなるんです。ですから“Kuß”はハッキリ歌ってください。それで女性が入って全部で歌うところに“・”はないわけですね。そこは割と幅広く歌ってください。

○ 601 【gan-zen】 “gan-zen Welt!”はひとつのフレーズですから、2小節間ffで歌いましょう。

○ 603 【Seid um-】 ここ、女性が入って4パートで歌うところはfが1個ですね。これは感極まって歌っちゃダメですよ。男性が歌っていることに共鳴して歌っているだけです。この時代は現代よりも理性がありますから、あんまり「そうだ！ギャー!!」とならないように歌ってください（笑）。

● 606 【o-nen!～】 “Die”のsfはちゃんと出してください。

○ 609 【gan--zen】 “gan--zen Welt!”という言葉はベートーベンが思い入れがありますからffで。ここでffはおしまいです。

● 611 【Brü-der!～】 また普通のf。楽に歌ってください。できるだけ一息で歌えるように。それがうまくいけば、“muß ein …”が2小節ごとにちゃんとなります。

● 612 【ü-berm～】 ちょっと低いですけどぉ…ですから、ffである必要は全然ありませんから。これ歌詞からいってもそうですね、“ü-berm Ster-nen-zelt（星の天蓋の上に）”ですから、今日も天気いいみたいですけども、“ず～っとあっちまでいっても…”ということを歌っているわけです。その雰囲気を出してください。そこはですねぇ、だから下向きに歌ってはダメなところです。“ü-berm Ster-nen-zelt …”後ろ向きにバタッ！というぐらい（笑）。で、一息。言葉でもって声を切らないように。うまくできているんです。言葉がプツプツにならないようなことにチャンとなっていますから。
……（後半練習）あの、あんまりたくさん歌いすぎないほうがいいです。さきほど言ったとおり、息は出したまんま。どうしても足りなければカンニングブレスをとるのはO.K.ですけれども、息たえだえにならないようにしてください（笑）。そんなに要らない。ベートーベンも気が優しいです

から、そのあとチャンと1拍休みが書いてある（614）。だからそこで充分息をとればいいんです。そして“muß ein …”と歌ってちゃんと息を使いきれば、また大きくなるから、そこにsfが書いてある（615）んです。生理的にも合ってるんです。ですからここは大きな三拍子を感じてください。気が大きくなって大三角形で歌ってください。もちろんここは“lie-ber Va-ter”という言葉（なのでつないで歌う？）ですけれども、“Va-ter”をハッキリ言えばいいですから。ここはそんなにつながなくて大丈夫です。

● 631 【Ihr_ stürzt〜】 分けて振りますから。ここ、全部振ります。
……ここが一番表現が多い場所ですから、合唱団として頑張らなければいけないのはここです。オーケストラはほとんど何も助けてくれませんから。ここは合唱が責任を持って歌うという場所です。それまではオーケストラと一緒に行けば良かったんですけれども。だからここは自主的に歌ってくださいね。

○ 631 【Ihr_ stürzt】 3拍目を分けて振りますので、3にはいってから“r_”を言ってください。そうでないと飛び込んじゃいますから。

……（後半練習）そうですねぇ、もう少し表情が欲しいと思いますけれども。できればもうちょっと小さくはいっていただけませんか。そして始めたのと同じぐらいに小さく戻って。そうですね“＜＞”って書いてあるんですから。そして短くなってはだめだと思います。長さは今まで通りたっぷり歌ってください。そして“stürzt”はもっと時間ありますよ。大丈夫です。“u”のウムラウトの4分音符を短く歌っちゃうと聞こえませんから、もうちょっと長く歌ってみてください。それも全部言えなくったってかまいませんから（笑）。その前の“s”は通過すればいいですから。形はちゃんとしなければいけませんが“シュ”って言う必要はありませんから“t”へ行っちゃって大丈夫です。“シュ”はカタカナで書いたら相当大きな字になりますけれども、小っちゃな字だと思ってください。これらをまとめて言っちゃえばいいです。…これ細かい話になってきましたね。“nie-”の直前に“rtz”って言えばいいです。“… rtz”と言ってしまうと、次の“nie-”の間がこんなに開いてしまいます。余談ですけども、“stürzt”には“・”が書いてないでしょ。次の“nie-der”には書いてある。そういうことです。
……“Ihr_ ”と“stürzt”の間は開いたほうがいいですよ。“Ihr_ stürzt”は命令形ですからね。“Ihr_ ”を全部歌いきってから“stürzt”と歌ってください。
……このAdagioに入る前の部分までは世の中の人たちにいろいろ呼びかけていたんです。ここからは自分たちの中だけの話になるんです。そうですね、いままで「がんばれ、がんばれ！」ってやってきたわけですね。それがここへ来て“Ihr_ stürzt”「おいおい、ちょっと内々の話なんだけど…」と、そういうふうに聞こえるように歌わないと。で、どうして内々の話かというと、上に神様がいるんで聞こえたら困るというんでこういう歌詞（汝らひれ伏すや？百万の人々よ、創造主を予感するや？世界の人々よ。）、と私は理解しているんだけど。
……もっとcresc.をやってください。上にこわい人がいるんですよ。だけれども、そこにいる皆さん全員に伝えないといけない。どうやって伝えようか、最初“Ihr_ ”は小さい声で言ったけど、ま

だ大丈夫だな…と声を大きくするんですよ。で、それ以上言うと“あっ”ということです。その大きさの直前までcresc.。その呼びかけた後で、「あいつが何か言ってる？」というんで耳をそばだてたら“stürzt”。そういう表現です。

● 645 【muß er～】 “woh-nen,”（住む）という言葉にsfがあるんですよ。ですから“muß er”からつなげてください。この前とは切れても構わない、切れないほうがありがたいんですが、“住んでいる”という言葉に一番重みがあるんです。

● 650 【～】 ここはオーケストラの響きの上に乗ればいいんです。だからオーケストラの音が出てから歌えばいいぐらいのところです。ここに入る前の直前にはソプラノの音の“ソ”とアルトの音の“ミ”がありますね。それをクラリネットが吹いてますよね。クラリネットの1番2番と入りますから、クラリネットを聞いてください。その響きの中から“ü--ber …”と歌えばいいですから。出なかったらあきらめて、次の言葉から歌えばいいです。大丈夫です。みんなで歌えば恐くない（笑）です。

● 651 【ü--ber～】 それから男性も一緒のところでやっているのはトロンボーンですよね。“ラ”“ド”っていうの。トロンボーンと一緒に小さく歌えばいいです。ここは聞こえなくてもいい場所ですから。聞こえなくてもいいというのは失礼ですけど（笑）、この前に“ü--ber Ster--nen …”（643～）歌っちゃったわけですよね。その響きが客席のほうに行っているわけですよ。空の遠くのほうで聞こえているわけですから、実際には歌ってないです、皆さんは。その歌ってないはずの言葉がこのあたりで歌われて聞こえていればいいです。みなさんが積極的に歌うと、そこでまたやりなおしになっちゃう…と思って！

♡ 654 【---nen.】 ちょっと低いですねぇ！
♧ 654 【woh--nen.】 低いですから、よくオーケストラを聞いてください。
★ 654 【お話し】「音程が合う」という一番大事なことは、自分が先に歌うと音程がわかんなくなっちゃう。ほかの人の音を聞いたら音程がわかるんです。そうですよね。これは我々商売でやっている人間が一番やらなければならないことなんですけども。わからないなと思ったら回りが合っているの

を確かめてから入るんです。

● 655 【～】 ダブルフーガのテンポは速くありませんから。84って書いてあるんじゃないかな。84というテンポは今歌ったのがちょっと速かったぐらいです。「Allegro energico, sempre ben marcarto」と書いてあるんです。わかりますよね。「エネルギッシュに…」「…いつも、すべて、はっきり」と書いてあるんです。よくわかんないような言葉ですよね。速さと関係ありませんよね。「全部ハッキリ歌い給え」と書いてあるんです。4分音符まで。だから全部基本になるテンポはそっちですよ。…ですからあとのほうの“R”（730～）のテンポもまったく同じに行かれますから。よくここで遅くなるんですけど、そういうことはない。

……（後半練習）もっと、“タッタタッタタッタ…”と。これはフーガだから、ベートーベンというようりはヘンデルみたいにやると思ってください。ヘンデルだったら皆さん一番ご存じなのはメサイアですよね。あの感じです。そうすると伸びてきますから。
……フーガのところは大丈夫です。とても良くできていますから。同じ形をずっとキープしていくんだと思っていただければ大丈夫だと思います。“Seid_ um--”はもっと気が大きくなってもらって大丈夫ですから。

♠ 663 【Freu-de, schö- ner～】 まだ4分音符が軽いです。“フーロィデ　シェーネル　ゲーッテル　フーンケン”って聞こえますけど、今度は逆です。“フーロィデ　シェーネル　ゲーッテル　フーンケン”です。理由はここはフーガだから、器楽ですから。全部ハッキリ出しちゃうんです。

● 730 【Ihr stürzt～】 伴奏が“タタタタタタ タタタタタタ…”歌うのが“…パパァ …パパァ”一緒ですよ。木管楽器が“タタタタタタ”で弦楽器が“…パパァ”です。みなさんご存じですよね。弦楽器がみなさんと一緒に歌います。今、4分音符が早いです。
……あのぉ、指揮者なんか見ないでオーケストラと一緒にやればいいんです（笑）。
……まだ男性軍が少し早いです。理由はわかります。“stürzt”とか“Schöp-fer,”とか言葉が多いので、早く言わないと間に合わないと思ってらっしゃるのでしょうけれども、ここだけの話ですけども…言葉なんか聞こえなくったって構いません（笑）。リズムのほうが正確でないと。

……コツはあるんですよ。みなさんはウエストサイドストーリーというミュージカルはご存じですか？あれの一番最初のところで（指ぱっちん）（笑）。これをやるといいんですよ。できるでしょ！リズムはこうなんです。もちろん100年違いますけどね。でも音楽のアイデアは同じなんです。バーンスタインのほうがパクったんです（笑）。
……まだダメですね。言葉は確かに小節の中にはいっているんです。“Ihr stürzt”“nie--der,”“Mil--li-o--nen?”って。でも音楽的には逆でアウフタクトというのは次の小節にくっつくんですから。それが今は“パチン、タタ”“パチン、タタ”のアイデアなんですから。言葉と音楽のどちらが優先するかといえば、ベートーベンの場合は音楽が優先ですから、“Ihr”“stürzt nie-”“-der, Mil-”“-li-o-”“-nen?”です。それから長いほうの音符もそんなに長くなくていいんで

す。休符が大事なんです。

……（後半練習）ここはオーケストラが来てからにしましょうかね。私、ココ本番は振らないつもりでいますから（笑）。オーケストラと一緒にやってください（笑）。棒振りは振ってうまくいくときと、いかない時がありますが、ここはうまくいかないところなんです。弦楽器の動きが全部ここで見えますから。ゲネプロのときに1回やってみればわかりますから、そう思ってください。もちろん本番では“（指）パチン”なんてやるわけいきませんからね（笑）。そしてさらにクラリネットとファゴットがみなさんが入りやすいように1小節を6つに分けた目盛りをやっているわけですから。…そうそう、そしてピアノ伴奏より大きく歌わないようにしてください。くっついて歌ってください。まだみなさんのほうが積極的すぎるんですよ。ここからは1回暗くならなければダメですよ。ここまで明るくやってきたわけですから。ベートーベンは躁鬱病でしたからね（笑）。突然暗くならないとダメです。ま、世の中往々にしてそうですよね。絶好調のときに「ホントにコレでいいの？」って。その感じが出ればいいです。

♧ 734 【Ah--nest】 テノールのみなさん、cresc.なさいましたけど、書いてないんじゃないでしょうか。まだpのままです。cresc.していいのはアルト（735～）からです。

○ 795 【Dei-ne Zauber,】 もっとハッキリ、ハッキリです。

○ 806 【Al--le】 入るのがちょっと遅いみたいですよ。ここは逆に飛び込んだほうがいい。“Men-schen,”で合わせてください。“人間”のほうで合わせてください。
……“le”をちゃんと発音すれば合います。
……あの癖がひとつあるんです。“ア…”って減ってるんですよね。そこは全然減る必要はないですよ。それが原因で小節の場所が逆に聞こえちゃうんです。

○ 809 【Men-schen,al-le】 テンポの関係はまったく簡単です。倍と半分です。（810から）倍遅くなる。だから突然非常ブレーキがかかってしまうようなことはありません。

♥ 810 【Men-schen wer-den～】 “wer-den”からはp。そこからはソプラノを聴いてください。特に

“wo dein sanf--ter …”です。“wo dein”（811）と降りますね。そこは1回小さくなってください。そしてソプラノの“sanf--ter …”（812～）が聞こえます。そうすると“ラシソ”がうまく入れますから。

○ 832 【Men-schen!】 速いテンポのままで、そのまま終わっちゃってください。

● 851 【～】 「Presto」132ですね。みなさんの楽譜は「Presto」「Prestissimo」どっち？
「Prestissimo」は間違いなんです。「Presto」です。最上級ではないんです。「急げ」です。ベートーベンの原稿を見ると「Prestissimo」がガチガチって消してあって「Presto」って書いてあります。これは守らないといけないんです。

● 915 【Toch-～】 ここが私が世の中と一番違うと言われているところなんですけども（笑）、ここから先がかなり速いというか、ベートーベンが書いたとおりにやります。4分音符が60ですからね。60で歌うことは無理です。そうやって書いたのはベートーベンですけども、さすがにこれはできないにしても、これに近いテンポでやります。ハッキリ60って書いてあるんです。ベートーベンの原稿を見たって60って書いてあるんです。誰が遅くしたんだと思っているんですけど、
……振り方としては簡単です。1拍目は分けて振りませんから。“Toch--ter”、“aus”は分けて振ります。
……（後半練習）あのねぇ、最初の切り替えだけです。ギアチェンジが今まで4段目だったのが3段目に降りるぐらい、それぐらいの違いですから。もうひとつ、“Toch--ter aus”まで全部大きく歌う必要もありません。“Tochter”“ aus E-ly-si-um!”ですよね、歌詞でいくと。だから“aus”を一生懸命に歌うというのも不思議な話なんです。“Toch-”で弱くなっていただいて全然構いません。オーケストラも弱くしてもらうつもりですから。

○ 916 【-ter aus E-】 917小節との間に切れ目がありませんから、同じテンポで行かれますから。“aus …”とやってきたからここでブレーキがかかっていたわけです。

○ 917 【ly-si-um!】 “ly”ここに少し重みがあるんです。

● 919 【Göt-ter-fun-ken! Göt-ter-〜】 確認しますよ。ffはどこでしょう？“Toch-”（915）ですね。“Freu-de,”（918）はfですよ。そして“Göt-ter-fun-ken!”（919）です。それが一番最後です。“ラーレ ラーレ”ってやってるわけですね。それでおの曲の一番最初は“レラー”ですよね。“レラー”が“ラーレ”って解決するわけですから、“ラーレ”をちゃんと歌わないと。そのために一番最後（920）にffです。凄いですよねぇ、65分間の最初と最後は合っているわけですから。…はい、以上です！じゃぁ来月ですね。本番よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

◆今年は連続で練習に来られているから本番、頑張るー!!(モヘモヘ)
◆テンポが速くて最後のところがとても気持ちよく歌えた。(T.O)
◆本番まであと1ヵ月！（もない）まだおぼえてないので、がんばります。(A.K.)
◆同じ第九なのに、とらえ方でこうも違うものなのですね。とても新鮮な感じがします。
◆いやぁ！高関先生、ス・テ・キ！あのキャラクター気に入っちゃいました。またまた本番が楽しみです。それに声も魅力的です。(セロ弾きのゴーシュ)
◆初めてお会いする高関先生、すてきなお声でわかりやすい説明、とても良かったです。今までと違うテンポのところも大丈夫そうで安心しました。(す)
◆とても楽しいレッスンでした。
◆今年は練習とはちがうことをたくさん習いました。いっぱい家で練習しなきゃ!!!(スヌーピー)
◆とても楽しかったです。指パッチンが忘れられません。(You-You)
◆楽譜に忠実に。基本に戻って再学習でした。(m♪)
◆新しい指揮者の方…また楽しいですね。やはり“第九”の楽しみのひとつはいろんな個性豊かな先生との出会いです。若々しい指揮に合わせて今年も歓び一杯で歌いたいです。
◆高関先生の指導、ていねいでわかりやすかったです。本番まであとわずか。テンポをしっかりマスターしなくては…。(おくまちゃん)
◆とても温かいお人柄の先生で、楽しく歌えました。今まで頑張りすぎていた気がします。
◆クライマックスの場面が今までと異なり、心配〜ついていけるかな。ガンバるしかないね。ちなみに高関先生ってかわいい。キャイーンの天野さんに似てるよ。(夢子)
◆初めまして高関先生。素敵なかわいい先生で楽しい2時間でした。本番がとても楽しみです。(プンちゃん)
◆また一味異なった第九発見の感じでした。あっという間の2時間、ありがとうございました。(メダカのおばちゃん)
◆高関先生の第九、すばらしいです。
◆今日の場所を間違えて遅れてしまいました。先生の指揮はとても楽しくてわかりやすかったので、本番がとてもたのしみです。(いちごちゃん)
◆とても楽しく指導していただいて、嬉しかったです。ベートーベンの楽譜に忠実に歌えることも嬉しく思います。(シャローム)
◆指揮者の指導日はとても楽しみです。気持ちよく歌えました。(櫻子)
♥先生のすてきなキャラクターと分かりやすい指導、一変にファンになりました。(オバタリアン)
♥のどを痛めて今日は歌えませんでした。(チーママ)
♥高関先生のご指導、とても分かりやすく楽しかったです。ありがとうございました。鼻風邪をひいてうまく声が出なかったのが残念ですが、ラストのテンポもなんとか歌えそうです。心を一つにしてがんばりましょう！(TOM)
♥今日は立ちっぱなし。少し疲れたけど、すばらしかったです。オケあわせでもがんばりたいです。(あんり)
♥がんばるピー♡(おJi蔵さん)
♥高関先生の指揮がわかりやすくて安心しました。
♥一つ一つの言葉（注意）がとてもわかりやすく、あっという間に時間が過ぎました。
♥ユニークで楽しい練習でした。
♥高関先生の指導は、とてもソフトでわかりやすく、本番が楽しみです。
♥全曲を通してやれた。曲の感じをどうにかつかめてきたが暗譜のほうはどうなることやら？
♥とてもわかりやすく歌いやすく、安心しました。(キーコ)
♥初めての高関先生の指導だったが、とてもわかりやすくて速いテ

ンポの場合もついていけそうになり、楽しい時間でした。(うずめ)
♥今日は高関先生のご指導を受け感動しました。野口記念館は音響が悪かったがみんなよく頑張ったので良かったです。(アッちゃん)
♥とても楽しみにしてきました。わかりやすくまた新たな気持ちになりました。(日向キルトママ)
♥とても分かりやすく楽しい練習でした。本番が楽しみです。
♥アッというほど時間のたつのが速かった。本番を楽しみに頑張りましょう。
♥高関先生のご指導、とても楽しかったです。(ユーミン)
♥十人十色のご指導だなと思うけど、しかしそれぞれにいいなと歌ってみる。17年の越し方をふり返り感無量。
♥本番直前まで歌えなくなりましたが、本番歌いますのでお許しを。(Bella Musica)
♥高関先生の1回だけの練習、短く頑張りました。がんばりま〜す。(Emily)
♥指導受ける前の不安がとんでいったようです。先生のあたたかさが伝わってきました。
♥楽譜どおりとはいえ、17年目にちょっととまどい気味です。が、頑張ります。(Y．N．)
♥高関先生の指揮を見ていたら、心配していた力所もわかりやすく歌え、安心しました。本番までしっかり練習してきます。(ヨッチン)
♥楽しくきびしいご指導、ありがとうございました。
♥楽しく練習できました。本番を楽しみにしています。皆さん、頑張りましょう。(たぬき)

♥ヤッター！先生のテンポについていくぞー!!本番がんばるぞ。(ミッちゃぁ〜ん)
♥何回かお休みしてすみませんでした。高関先生の分かりやすいご指導で楽しく歌うことができました。久しぶりの声出しで気分もすっきりです。(光ちゃん)
♥楽しく歌えました。高関先生、とても素敵でした。
♥とても楽しかったです。
♥すばらしいご指導で楽しかったです。
♥楽しかったです(Y．Y．)
♥こんなにも違うとはじめての体験をしているようで、ハラハラドキドキでとても楽しい。テープに録音したので、しっかりレッスンしよう。(ドリーム)
♣高関先生の指導でベートーベン先生に少し接近しました。
♣今までの第九と違うタイプの高関先生の第九。調子をつかみにくい感じがしましたが、なんとか歌ってみました。親しみやすい感じのする先生でした。
♣久しぶりに多くの仲間に会えた気持ちです。最後の頑張りで団結していきましょう。(ヒロー)
♣高関先生は簡潔でわかりやすく、ついていきたいと思います。(ねこふんじゃった)
♣とても楽しいご指導、ありがとうございました。(す)
♣指揮者の人がかわって不安ですが、がんばりたいと思います。(大)
♠指揮者指導、いつもの第九と若干違うところもありますが、本番が楽しみです。(プータロウ)
♠先生はとてもすばらしい人でした。
♠高関先生の指導、なぜか新鮮味があって楽しかった。いい雰囲気の方ですね。(グリーンヒル)
♠さすがにいい指導をしてくださる。これまでの長井先生のご指導の基本とかわらない。(Q生)

次回は12月7日（土）19:00〜21:30

●編集後記

高関先生の直接指導をモジにしてみました。解説が満載。いつもの倍の時間かけてます。画像は200枚の中からチョイス。解説部分のそえてある画像の表情でモジ以外の部分をくみとって指導を思い出し、楽譜に自分なりに書き写してください。（頭の中に焼き付けていただくこともお忘れなく）次回の練習、いよいよ12月ですね。とびばこで言えば、7日の練習が本番への踏切板にあたるかも。【munenori@horita.jp】